

新刊紹介

大原性実著

教行信證概説

提供している。その内容は個々の専門的な特殊研究としての諸論文を編集編輯したものであるが、反面、我々初學者にとつても充分に理解し得る統一性を有している。その事は、斯書が東南アジアを佛教の「idea」によつて統一せんとしている意圖の下に刊行されたと云う裏面的意義によつて、よく知られるのである。斯書が有している佛教を綜合的統一的に把握せんとする意圖と世界的研究によつてのみ成し得るであろう所の豊富な内容とは、今後の佛教研究の方法に新しい方針を提示している。更に、インド研究上他で見られない珍しい佛教美術の寫眞が多くのせられ、又、巻末には世界各國の文獻目録、ビブリオグラフィ―四四頁、佛教術語の解説、佛教分布地圖、ヒンドウ文化傳來のチャートなどをおさめ、學的探究にとつても完璧を期して編纂された稀に見る大著である。2-6, 1959;

France-Asie, 93 rue Nguyen-van-Thinh SAIGON (Vietnam) 日本代理店 Charles E. Tuttle Co., Nippon Shuppan Kyokai, 1-1 chome, Kasugacho, Bunkyo-ku, Tokyo

本書は宗學の權威者である著者が、その冷厳な態度でもつて多年研鑽され來つた研究成果を、龍大における講義テキストの意味を兼ねて、サーラ叢書として要約・概説せられたものである。従つて初學者にとつては聊か難解であるかも知れないが、本書に依つて教行信證に關する宗學の傳説的解釋は充分に窺ひ知ることが出来るであらう。

尙卷頭には近年學界で問題にせられてゐる信卷別撰に對する批判も、一章として特に設けられている。

(B 六版、三六三頁昭和三十四・八・一・平樂寺書店發行四五〇圓)(橋谷)

豐橋寺院誌

豐橋寺院誌編纂委員會

豐橋市現存の各宗派寺院二百ヶ寺と廢

寺五十ヶ寺を收録。便宜上二十三の地域に分け、各寺院の由緒、境内、什物、墓碑、人士等を中心に戦時の岡市空爆をへて戦後の農地解放に至るまでの變遷がしるされている。寺傳を中心に古記録で補

い批判する方法によつてゐるが、元祿年間の「佛閣記」が現存し有力な筆據を提供している。多くの寺院に亘つてできるかぎり資料を採集し、戦火ののち残存資料を整理記録すると共に廢寺を記念して廢忘に備えた意義は大きい。卷頭に參考文獻を掲げ、末尾に略年表と索引が附されている。地圖が附されれば一層便利であらう。(昭和三十四年八月三十日豐橋佛教會發行、A 5版、六七一頁)(名畑)

城端町史

我々は今日、學問的な水準に達した町村史を手にし得るようになった。

これは勿論、戦後における地方大學の成立とそれを中心とする地方史學會の發足に影響されたものであらうが、基本的には、日本史における地方史の位置づけ